

羽田ミヤコタナゴ通信

通信

思いおこせば、ミヤコタナゴの野生復帰を目指し、羽田でその取り組みが本格的に始まったのは平成23年7月20日からでした。今年で8年目になります。その間にいろいろな取り組みを行い、いろいろなことがわかってきました。また全国で初めてとなる取り組みにも挑戦し、成功しました。特に印象的なことは、「ハスの除去」と「特定外来生物であるオオクチバス、ブルーギルの駆除」であったかと思えます。ハス駆除については全国で初めてとなる除草剤による駆除を宇都宮大学と共に行い、見事に成功し、各地へその方法が広がりつつあります。また外来魚の駆除も偶然が重なり、現在では全く確認されていません。この事についても先進事例の一つです。

『水質が悪いのでミヤコタナゴは生息できないのではないか。貝がかわいそうではないか。』いろいろな意見をいただきながら前へ前へと進んできた期間でもありました。いただいた意見をもとに、協議会のメンバーが目標を一つにし、問題・課題を克服し、再導入までもう一步のところまで近づいてきたように感じられます。そのような取り組み軌跡についてミヤコタナゴ通信第6号にまとめさせていただきました。皆様にはどのように感じられたでしょうか。

羽田地区には日本の農村の原風景が根付いていると思います。地域で困りごとがあれば地域一丸となって対応していく姿が、地域の活性や発展を支えていくものであると感じています。そのような羽田地区の皆さんの姿勢が、ミヤコタナゴの再導入に向けた活動に表れているものだと、通信を作成しながら感じています。

トピック

- 1 水路の水温、水質について
- 2 千葉県でミヤコタナゴ保護増殖検討会が開催されました
- 3 稚貝導入試験の結果
- 4 笹川政務官が視察に訪れました
- 5 本年度、水管理マニュアルの作成を行います
- 6 平成30年度の作業計画



羽田太々神楽
～ 磐戸開(いわとひらき)の1コマ～